広告 企画・制作＝日本経済新聞社コンテンツユニット

ロボット活用、各界で進む

家庭用の掃除ロボットはここ数年で大きく普及してきたが、あらゆる生活シーンでロボットが身近に溶け込んでいるとは言えない。しかし人間側がロボットに優しい環境を用意することで、ロボットと人との共存・協業シーンは拡大し、ひいてはそれが生活の利便性向上に役立つはずだ。経済産業省が主導するロボットフレンドリープロジェクト、各業界で取り組みが進んでいる。

既存建物と協調も

オフィスビルのフロアを自在に動き回って調理、警備、搬送などを担うロボットの姿を見かけるようになった。ただ、ロボットは設置するエレベーターでフロア間を上下移動するのは苦手だ。設置場所が異なるロボットとエレベーターの連携が重要なテーマとなる。新設だけでなく、既存の建物にレトロフィットすることも普及の条件だ。

「足を使って階段を上り下りできるロボットもあるが、既存のビルでそれを使うのは現実的ではない。ロボットとエレベーターが連携して、指定のフロアにいるロボットをエレベーターが知らせに行くほうが現実的」と同社の担当者は話す。

「足を使って階段を上り下りできるロボットもあるが、既存のビルでそれを使うのは現実的ではない。ロボットとエレベーターが連携して、指定のフロアにいるロボットをエレベーターが知らせに行くほうが現実的」と同社の担当者は話す。

2018年6月にスイーカーを開発した日本信号（東京都千代田区）では、同年6月にスイーカーを開発した日本信号（東京都千代田区）では、同年6月にスイーカーを開発した日本信号（東京都千代田区）では、同